

## 学力向上について

笠間市教育委員会学務課

### 1 現況

【別紙：全国学力・学習状況調査（総合平均）の経年変化】より

#### <小学生>

○小学校6年生の、過去8年間をみると、年度において上がり下がり（プラス2.8ポイント～マイナス1.8ポイント）はあるものの、ほぼ県・全国平均に近い数値を示している。

#### <中学生>

○小学校6年時と中学校3年時を比較すると、21年度小学6年・24年度中学3年の学年で平均が向上したのを除き、それ以外の学年では、小学6年生時に比べ、中学3年生時には平均が下がっている。

【学習状況アンケート調査】より

学習状況調査においては、本市児童は比較的生活習慣はしっかりしている。

○学校以外での学習時間は、小中学生とも県・全国平均以上の学習時間が確保されている。また、テレビやDVD、携帯やスマホなどに費やす時間も県・全国に比べて少ない状況にある。

○そのように生活は落ち着いている一方、小中学生に共通した回答としては、「意見を発表することが得意ではない」「新聞を読んでいない」などの割合が高くなっている。さらに顕著なものとしては、全ての項目で「解答時間が足りなかった」と答えた割合が高く、問題等の理解に時間がかかっていたことが推察できる。

### 2 考えられる要因

#### ○小学生

- ・あいまいな学力の部分を残したまま進級してしまうことがあり、上の学年になって伸び悩み、点差も開いてしまうケースがある。
- ・本を読む機会が足りない。（読解力は全ての学習の基本）

#### ○中学生

- ・小学校からの学習の積み重ねに課題がある生徒がいる。
- ・中1ギャップ\*1)等に起因する中学校生活への戸惑いや不適應による学習への影響が考えられる。

※1) 中1ギャップ：小学6年生が中学1年生となったときに、学校生活や授業のやり方（部活動、教科担任制での授業、学習の仕方やテストの違い）などが異なるために戸惑ったり、新しい環境になじめなかったりすることから、不登校やいじめが急増する状況を言う。

### 3 課題

小・中の各テストとも県・全国と比較したプラス・マイナスの差は、全問正答の場合の正答率を100%としたとき差であり、正答率の差（ポイント）である。そこで、これまでよりも数問多くできるようにすることで直近の目標・課題としたい。

現在市内の子供たちはしっかり授業を受けている。その一方で、「自分の意見を発表することが得意ではない」と答えている児童生徒の割合が高く、主体性や活力の不足を感じる。様々な取組により、学び方を身に付けさせたり、自信を引き出したりすることで授業の活性化を図りたい。

また、幼保小連携や小中連携を推進し、各校種の滑らかな連携を推進していきたい。

### 4 これまでの対応策と成果・課題

#### ○学力向上支援事業

各学校に教員免許所持者1名（大規模校2名）を非常勤講師として配置し、チームティーチングによるきめ細やかな授業を展開している。

⇒ 特に小学校においては、全国的にも指導の難しさが指摘されている小1プロブレム<sup>※2)</sup>など様々な問題がある。そのような中であっても、それらを克服し一定程度の成果を上げている。

#### ○全国学力調査検討委員会

市内小・中・義務教育学校の教職員25名を検討委員として任命し、テスト結果の分析をもとに①テスト結果の分析（成果と課題の整理）②「授業改善プラン」の作成及び授業研究会の実施③「パワーアップ問題集」の作成を行っている。

⇒ 各学校ともテスト分析結果を活用し、指導内容やポイントの焦点化が図られるようになってきている。さらには、授業改善プランによる教職員の資質向上や問題集の有効活用を推進していく。

※2) 小1プロブレム：小学校に入学したばかりの1年生が、(1)集団行動がとれない(2)授業中に座ってられない(3)先生の話听不懂、などと学校生活になじめない状態が続くこと。

### 5 今後の対応策

#### ○市教育専門員制度

今年度から、市内教職員の中で、各教科等の指導に関し、特に識見を有する者を笠間市教育専門員に任命し、模範授業を実施することで、市内教職員の授業力向上のための取組を開始した。内容の充実拡大を図っていきたい。(今年度市内で17名を任命)

### ○市立図書館と連携した読書活動の推進

小学校6年生・中学校3年生どちらの学年でも、「解答時間が足りなかった」と回答している児童生徒の割合が全国・県に比べ全ての項目で高かった。このことは、問題を読み取る力（読解力）の不足であり、正答率にも少なからず影響していることが考えられる。本市児童生徒の学力向上には、読書活動の下支えが不可欠であり、市立図書館等と連携した読書活動の推進を図っていきたい。

### ○ICTを活用した主体的な基礎基本の習得

今年度から、ICT教育への取組として、みなみ学園にタブレット等を配置した。子供たちは、躊躇なく積極的に活用している。このような子供たちたちに、課題を克服しながら学べるプログラムを与えることによって、子供たちの主体的な基礎基本の習得につなげたい。

## 6 その他SC, SSW, 特別支援教育支援員, 県立特別支援学校, 子ども福祉課等と連携した児童生徒が学習に集中して取り組める環境づくり

### ○保護者等への対応

子育てに不安や悩みを抱えている保護者や価値観の多様化する保護者や家庭への対応についての適切な対応

### ○配慮を要する児童生徒への対応

登校しぶり, 不登校, 発達障害など配慮を要する児童生徒への適切な対応

# 全国学力・学習状況調査の経年変化について

<小学校6年>

	平成21	22	23	24	25	26	27	28	29
笠間市	62.3	73.7	/	67.4	60.6	68.0	64.6	65.9	64.0
茨城県	62.6	70.9		67.5	62.4	68.2	64.6	64.5	65.8
全国	63.5	71.2		66.1	61.9	66.2	63.3	63.9	64.2
県との比較	▲0.3	2.8		▲0.1	▲1.8	▲0.2	0.0	1.4	▲1.8
全国との比較	▲1.2	2.5		1.3	▲1.3	1.8	1.3	2.0	▲0.2

<中学校3年>

	平成21	22	23	24	25	26	27	28	29
笠間市	68.0	64.5	/	63.0	60.6	65.2	59.1	59.3	65.0
茨城県	67.7	62.2		61.0	62.9	64.1	60.7	62.9	66.3
全国	67.8	62.1		60.2	62.3	64.4	60.1	62.1	65.6
県との比較	0.3	2.3		2.0	▲2.3	1.1	▲1.6	▲3.6	▲1.3
全国との比較	0.2	2.4		2.8	▲1.7	0.8	▲1.0	▲2.8	▲0.6